

平成28年9月7日(水) 第5校時

6学年2組 計19名

指導者 四万十市立中村南小学校 濱口真由美

教材名：「最後のおくり物」〈私たちの道徳 小学校5・6年 文部科学省〉

主題名：相手の立場に立って 【親切, 思いやり】高B- (7)

実践の POINT

- 発問の工夫
- 板書の工夫

1 ねらい

○困っているロベーターに対するジョルジュじいさんの心温かな行動からどんな思いを感じたかを話し合う活動を通して、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。

2 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

相手に対して思いやりの心をもって接することは、よりよい人間関係を築く上で不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のこととして推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。励ましたり援助したりすることや、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。道徳の時間における思いやり親切にする対象としては、低学年では幼い人や高齢者・友達などの「身近にいる人」、中学年では「相手」、そして、高学年では「誰に対しても」と広がっていく。高学年では特に、相手の立場に立つことを強調する必要がある。自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手にためになるのかをよく考えた言動が求められる。

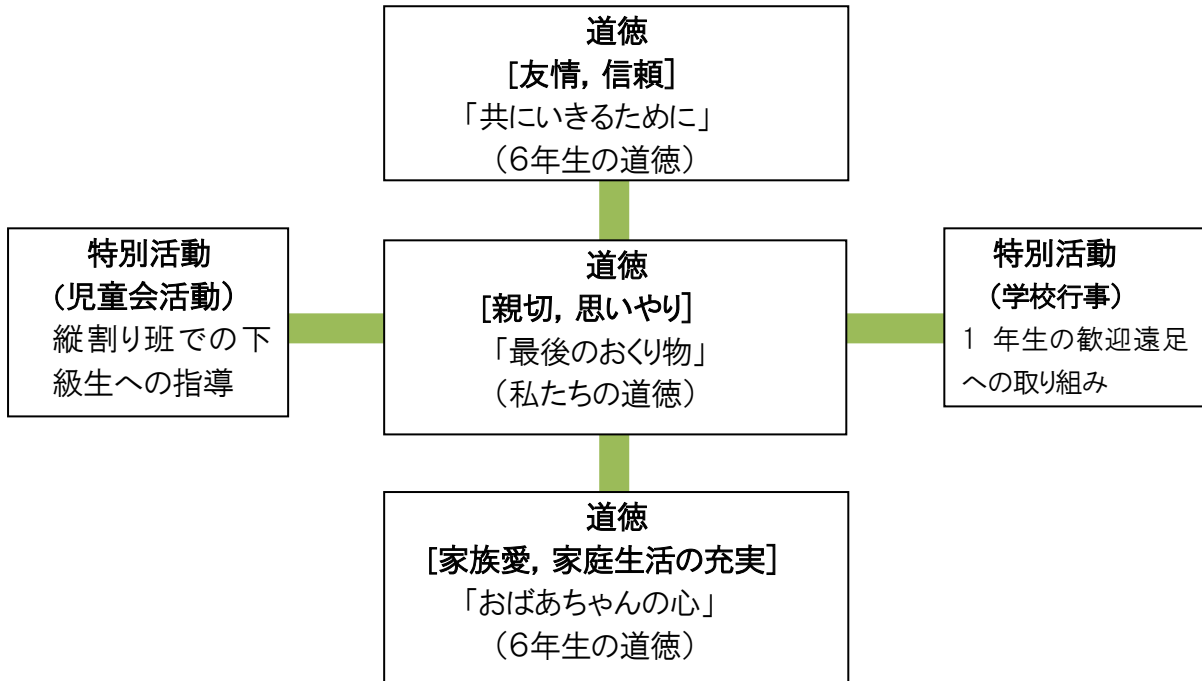
(2) 児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、……(中略)……様々な場面や状況の中で、どうすることが相手のためになるのかを判断し、誰に対しても思いやりの心を持ち、親切にすることの大切さに気付かせていきたい。

(3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本資料は、主人公のロベーターが守衛のジョルジュじいさんからの最後の手紙を読み、初めて自分への温かい思いやりに気付く。自分のことしか考えていなかったロベーターが、相手を思いやることの大切さに気付く、人を思いやる生き方をしようとする姿から、相手の立場に立ってについて考えることができる資料である。本資料の活用にあたっては、ロベーターの生き方や考え方に大きな影響をあたえることになるジョルジュの思いや考えについて十分に話し合わせたい。そして、ジョルジュからの温かい思いやりに気付くロベーターの思いを想像させることで、相手の立場に立って親切にすることについて考えさせるようにし、本校の研究主題である「自己の生き方を見つめる児童の育成～道徳科の研究を通して～」にせまりたい。

体験的活動や他教科等との関連



板書計画

